

証券コード  
4568

決算補足資料  
(2007年3月期決算)



Daiichi-Sankyo

2007年5月

第一三共株式会社

[http:// www.daiichisankyo. co.jp](http://www.daiichisankyo.co.jp)



## 2006年度 決算補足資料目次

[1] 損益計算書推移	P1
[2] 為替レート	P1
[3] グローバル製品売上高	P2
[4] 海外売上高	P2
[5] セグメント別情報(事業別)	P3
[6] セグメント別情報(所在地別)	P3
[7] 主要経営指標	P4
[8] 単元株式の所有者別状況	P4
[9] 国内の状況(主要製品売上高)	P5, 6
[10] 海外の状況(主要製品売上高)	P7, 8
[11] 連結財務諸表の解説	P9~12
[12] 研究開発の状況	P13~18

2007.5.15



第一三共株式会社

コーポレートコミュニケーション部

# MEMO

# 1.損益計算書推移

(単位：億円)

	2005年度実績		2006年度実績						2007年度予想		
	上半期	年度	上半期	下半期	年度	対5月公表		医薬品* 事業合計①	上半期	年度	増減比較 ②-①
						対1月公表					
前同比	<0.6>	<1.0>	<7.5>	<-6.4>	<0.4>				<-14.4>	<-10.0>	<1.4>
売上高	4,518	9,259	4,858	4,437	9,295	645	45	8,253	4,160	8,370	117
売上原価	1,413	2,907	1,380	1,272	2,652	310	27	1,954	1,000	2,005	51
売上原価率	31.3%	31.4%	28.4%	28.7%	28.5%			23.7%	24.0%	24.0%	
販管費	2,302	4,805	2,695	2,585	5,280	52	35	5,008	2,410	4,795	-213
販管費率	50.9%	51.9%	55.5%	58.3%	56.8%			60.7%	57.9%	57.3%	
再掲) 研究開発費	725	1,587	849	857	1,707	37	17	1,651	820	1,615	-36
研究開発費率	16.1%	17.1%	17.5%	19.3%	18.4%			20.0%	19.7%	19.3%	
前同比	<8.3>	<9.7>	<-2.5>	<-22.1>	<-11.9>				<-4.3>	<15.2>	<21.6>
営業利益	803	1,547	784	580	1,363	283	-17	1,291	750	1,570	279
営業利益率	17.8%	16.7%	16.1%	13.1%	14.7%			15.6%	18.0%	18.8%	
前同比	<8.4>	<14.2>	<6.7>	<-17.1>	<-4.8>				<-9.3>	<8.5>	<13.8>
経常利益	826	1,597	882	639	1,521	371	1	1,450	800	1,650	200
経常利益率	18.3%	17.2%	18.2%	14.4%	16.4%			17.6%	19.2%	19.7%	
前同比	<1.5>	<2.6>	<35.3>	<-69.5>	<-10.4>				<-34.2>	<17.1>	<22.8>
当期純利益	495	877	669	117	785	315	75	749	440	920	171
当期利益率	10.9%	9.5%	13.8%	2.6%	8.5%			9.1%	10.6%	11.0%	

\*2006年度実績医薬品事業合計①については、2007年度予想との比較を容易にするために、継続対象としている事業について記載しております。従って、決算上の医薬品事業とは異なります。

## 【2006年度決算に関する特記事項】

- ・第一三共INC. (DSI) とルイトボルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社については、決算期の変更(12月期→3月期決算)により、2006年1月-2007年3月の15ヶ月決算となっております。その影響額(2006年1月-3月)は、売上高315億円、営業利益90億円、経常利益105億円、純利益58億円であります。
- ・当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。当期においては、連結子会社のうち、和光堂(株)、富士製粉(株)、第一化学薬品(株)、(株)第一ラジオアイソトープ研究所、三共アグロ(株)、目黒化工(株)、三共エール薬品(株)、第一メディカル(株)等が連結除外となりました。

## 【2007年度予想に関する特記事項】

- ・第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) は、2007年度に決算期の変更(12月期→3月期決算)を予定しており、2007年1月-2008年3月の15ヶ月分の業績を計上いたします。その影響額(2007年1月-3月)は、売上高で約120億円、営業利益については軽微と見ております。

# 2.為替レート

	2005年度実績		2006年度実績				2007年度予想	
	上半期	年度	上半期	下半期	年度	5月公表		
						上半期	年度	
円/USD (期中平均)	-	-	115.9	-	117.0	115	115	
円/EUR (期中平均)	-	-	142.2	-	146.1	135	140	

## 【2007年度予想における為替の影響】

1円の為替変動によるUSドルベースの売上高への影響は約18億円、営業利益への影響は約3億円と見ております。同様に、ユーロベースの売上高への影響は約5億円、営業利益に対しては軽微な影響と見ております。

### 3. グローバル製品売上高

(単位：億円)

	2005年度実績		2006年度実績					2007年度予想			
	上半期	年度	上半期	下半期	年度			上半期	年度		
					対5月公表	対1月公表	前同比		前同比		
オルメサルタン 【血圧降下剤】	411	924	840	763	1,603	150	-10	73.5%	955	1,950	21.6%
日本：オルメテック	100	256	194	228	422	68	-14	64.9%	285	630	49.2%
米国：ベニカー/ ベニカーHCT*	228	503	533	395	928	58	2	84.4%	440	870	-6.2%
欧州：オルメテック/ オルメテックプラス**	72	147	101	124	225	19	0	53.2%	205	370	64.3%
その他	11	18	12	16	28	5	2	56.2%	25	80	184.5%
レボフロキサシン*** 【広範囲経口抗菌剤】	485	1,015	488	553	1,041	33	4	2.6%	510	1,080	3.7%
日本：クラビット	235	502	210	257	467	-9	-10	-6.9%	230	520	11.3%
輸出 等	173	347	193	191	384	32	6	10.6%	195	375	-2.4%
特許料	77	166	85	105	190	10	8	14.4%	85	185	-2.5%
プラバスタチン 【高脂血症治療剤】	792	1,432	520	415	935	15	10	-34.7%	405	780	-16.6%
日本：メバロチン	385	752	348	330	678	-4	6	-9.9%	330	650	-4.1%
欧州**	24	55	33	27	60	8	2	9.1%	37	60	0.0%
輸出 等	383	625	139	59	198	12	3	-68.4%	38	70	-64.6%

\*米国オルメサルタン（製品名：ベニカー）の2006年度実績は、決算期の変更により、2006年1月-2007年3月の15ヶ月分となっております。

2006年1月-3月の実績は、156億円（\$135mil）であります。

\*\*欧州オルメサルタン（製品名：オルメテック）、プラバスタチンの2007年度予想は、決算期の変更により、2007年1月-2008年3月の15ヶ月分となっております。その影響は、オルメサルタン約60億円、プラバスタチン約15億円と見ております。

\*\*\*今回より、自社販売を行っているアジア地域での売上高を含めて連結売上高を集計しており、過去の実績に遡って再計算しております。

### 4. 海外売上高

(単位：億円)

	2005年度実績		2006年度実績				2007年度予想		
	上半期	年度	上半期	下半期	年度		上半期	年度	
					前同比	前同比		前同比	
北米	940	1,826	1,350	1,069	2,419	32.4%	990	2,040	-26.6%
欧州	454	984	446	397	843	-14.3%	530	900	6.7%
その他*	142	262	151	154	305	16.5%	130	260	-14.8%
海外売上高	1,536	3,073	1,946	1,621	3,567	16.1%	1,650	3,200	-10.3%
対売上高比率	34.0%	33.2%	40.1%	35.9%	38.4%		39.7%	38.2%	

\*中国、韓国、タイ、台湾、ブラジル、ベネズエラ等

・北米子会社第一三共INC. (DSI) とルイトポルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社については、決算期の変更（12月期→3月期決算）により、2006年度については2006年1月-2007年3月の15ヶ月決算となっております。その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円であります。

・欧州子会社第一三共ヨーロッパGmbH(DSE)については、2007年度に決算期を変更（12月期→3月期決算）する予定です。その影響額（2007年1月-3月）は売上高約120億円と見ており

## 5.セグメント別情報（事業別）

(単位：億円)

		2005年度実績			2006年度実績		
		上半期	下半期	年度	上半期	下半期	年度
	国内医療用医薬品	2,083	2,231	4,314	<b>2,152</b>	<b>2,182</b>	<b>4,334</b>
	海外医療用医薬品	1,453	1,443	2,895	<b>1,852</b>	<b>1,529</b>	<b>3,381</b>
	ヘルスケア	148	131	279	<b>246</b>	<b>233</b>	<b>479</b>
	医薬品事業	3,854	3,993	7,847	<b>4,414</b>	<b>3,957</b>	<b>8,371</b>
	その他事業	664	749	1,413	<b>444</b>	<b>479</b>	<b>924</b>
	連結売上高	4,518	4,741	9,259	<b>4,858</b>	<b>4,437</b>	<b>9,295</b>
	医薬品事業	777	705	1,481	<b>759</b>	<b>555</b>	<b>1,314</b>
	その他事業	23	38	61	<b>23</b>	<b>21</b>	<b>44</b>
	連結営業利益	803	744	1,547	<b>784</b>	<b>580</b>	<b>1,363</b>

第一三共INC. (DSI) とルイトポルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社については、決算期の変更（12月期→3月期決算）により、2006年度については2006年1月～2007年3月の15ヶ月決算となっております。その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円、営業利益90億円であります。

## 6.セグメント別情報（所在地別）

(単位：億円)

		2005年度実績						2006年度実績					
		上半期		下半期		年度		上半期		下半期		年度	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
	日本	3,712	82.2%	3,816	80.5%	7,528	81.3%	<b>3,420</b>	70.4%	<b>3,259</b>	73.5%	<b>6,678</b>	71.9%
	北米	537	11.9%	623	13.1%	1,161	12.5%	<b>1,085</b>	22.3%	<b>829</b>	18.7%	<b>1,915</b>	20.6%
	欧州	213	4.7%	241	5.1%	455	4.9%	<b>273</b>	5.6%	<b>261</b>	5.9%	<b>534</b>	5.7%
	その他	55	1.2%	61	1.3%	116	1.3%	<b>80</b>	1.6%	<b>88</b>	2.0%	<b>168</b>	1.8%
	連結売上高	4,518	100.0%	4,741	100.0%	9,259	100.0%	<b>4,858</b>	100.0%	<b>4,437</b>	100.0%	<b>9,295</b>	100.0%
	日本	691		611		1,302		716		411		1,127	
	北米	119		135		255		339		34		373	
	欧州	-19		12		-7		54		14		68	
	その他	5		4		9		3		5		8	
	連結営業利益	803		744		1,547		784		580		1,363	

第一三共INC. (DSI) とルイトポルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社については、決算期の変更（12月期→3月期決算）により、2006年度については2006年1月～2007年3月の15ヶ月決算となっております。その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円、営業利益90億円であります。

## 7.主要経営指標

	2005年度実績		2006年度実績		2007年度予想
	上半期	年度(末)	上半期	年度(末)	年度
設備投資(工事ベース)	178 億円	301 億円	135 億円	<b>315</b> 億円	— 億円
減価償却費	195 億円	444 億円	190 億円	<b>399</b> 億円	<b>350</b> 億円
配当性向(連結)	34.7 %	40.5 %	32.7 %	<b>55.7</b> %	<b>55.5</b> %
1株当たり利益(EPS)	67.5 円	119.4 円	91.7 円	<b>107.7</b> 円	<b>126.2</b> 円
1株当たり配当金	25.0 円	50.0 円	30.0 円	<b>60.0</b> 円	<b>70.0</b> 円
純資産配当率(DOE)	1.5 %	2.9 %	1.7 %	<b>3.5</b> %	
自己資本当期純利益率(ROE)	4.2 %	7.3 %	5.3 %	<b>6.3</b> %	
1株当たり純資産(BPS)	1,610.6 円	1,696.9 円	1,756.3 円	<b>1,740.2</b> 円	
自己資本比率	77.3 %	77.5 %	78.3 %	<b>77.5</b> %	
期末発行済株式総数	729,089 千株	729,052 千株	729,027 千株	<b>729,002</b> 千株	
期末株価(終値)	2,325 円	2,685 円	3,350 円	<b>3,610</b> 円	
連結子会社数	61 社	57 社	54 社	<b>54</b> 社	
連結要員数	18,648 名	18,434 名	18,409 名	<b>15,358</b> 名	

## 8.単元株式の所有者別状況

	2005年9月末			2006年3月末			2006年9月末			2007年3月末		
	株主数 (名)	所有株式数		株主数 (名)	所有株式数		株主数 (名)	所有株式数		株主数 (名)	所有株式数	
		(百万株)	構成比		(百万株)	構成比		(百万株)	構成比		(百万株)	構成比
政府及び地方公共団体	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
金融機関	178	314	42.9%	185	340	46.5%	178	341	46.5%	<b>186</b>	<b>347</b>	<b>47.4%</b>
証券会社	45	27	3.7%	44	7	1.0%	40	10	1.4%	<b>58</b>	<b>12</b>	<b>1.8%</b>
その他の法人	672	49	6.7%	635	49	6.7%	593	48	6.6%	<b>647</b>	<b>49</b>	<b>6.7%</b>
外国法人等	603	240	32.8%	569	236	32.3%	600	241	33.0%	<b>638</b>	<b>234</b>	<b>31.9%</b>
個人・その他	53,479	101	13.9%	55,244	99	13.6%	49,077	91	12.5%	<b>52,290</b>	<b>89</b>	<b>12.2%</b>
自己株式	0	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0.0%</b>
合計	54,978	733	100.0%	56,679	733	100.0%	50,490	733	100.0%	<b>53,821</b>	<b>733</b>	<b>100.0%</b>

## 9.国内の状況

### 主要医療用医薬品売上高（建値売上高）

（単位：億円）

	2005年度 実績	2006年度実績					2007年度予想			
		対5月公表	対1月公表	対前同	前同比	上半期	年度	対前同	前同比	
国内医療用医薬品売上高（純売上高）	4,130	4,204	-	-	73	1.8%	2,180	4,520	316	7.5%
循環器関連疾患領域										
オルメテック【高血圧治療剤】	256	422	68	-14	166	65.4%	285	630	208	49.2%
カルブロック【高血圧治療剤】	64	88	-4	-3	24	38.0%	60	135	47	53.8%
アーチスト【高血圧治療剤】	182	193	5	-2	11	5.9%	115	230	37	19.2%
メバロチン【高脂血症治療剤】	752	678	-4	6	-74	-9.9%	330	650	-28	-4.1%
クレメジン【慢性腎不全用剤】	130	122	-2	-2	-8	-6.4%	65	130	8	6.7%
ハンブ【急性心不全剤】	86	92	-0	-3	6	5.8%	46	100	8	8.9%
リバロ【高脂血症治療剤】	41	51	-5	0	10	23.9%	33	70	19	36.4%
サンリズム【不整脈治療剤】	119	117	4	-1	-2	-1.3%	60	120	3	2.3%
ペプリコール【不整脈・狭心症治療剤】	18	23	-	-	5	25.8%	12	26	3	13.0%
ファスティック【血糖降下剤】	53	54	-3	-0	1	0.6%	27	55	1	1.9%
感染症/骨・関節/免疫・アレルギー/泌尿器										
クラビット【広範囲経口抗菌剤】	502	467	-9	-10	-35	-6.9%	230	520	53	11.3%
ロキソニン【鎮痛抗炎症解熱剤】	290	309	24	-2	19	8.0%	170	350	41	13.2%
モービック【消炎治療剤】	106	107	-4	-3	1	0.7%	65	125	18	17.2%
ユリーフ【排尿障害改善剤】	-	23	-	-	-	-	29	80	57	253.5%
ジルテック【抗アレルギー剤】	126	120	7	3	-6	-4.8%	45	95	-25	-20.6%
造影剤/癌/消化器										
オムニパーク【造影剤】	347	315	19	-1	-32	-9.1%	180	340	25	7.8%
オムニスキャン【MRI用造影剤】	54	52	1	0	-2	-2.6%	27	55	3	4.9%
トボテシン注【抗悪性腫瘍剤】	48	54	-1	2	6	12.1%	29	60	6	10.5%
クレスチン【抗悪性腫瘍剤】	46	38	-	-	-8	-18.2%	19	37	-1	-2.6%
フェロン【天然型インターフェロンβ製剤】	37	40	-	-	3	9.6%	24	55	15	37.2%

### 主要ヘルスケア製品売上高

（単位：億円）

	2005年度 実績	2006年度実績					2007年度予想			
		対5月公表	対1月公表	対前同	前同比	上半期	年度	対前同	前同比	
ヘルスケア売上高（純売上高）	279	479	-63	-10	-	-	260	520	41	8.5%
ルル類	94	100	-2	-3	6	7.7%	55	110	10	9.7%
ガスター10	-	36	-6	-3	-	-	17	39	3	8.6%
新三共胃腸薬類*	29	30	-0	1	1	2.2%	14	34	4	15.0%
パテックス類	20	19	-4	-3	-1	-3.5%	18	30	11	56.3%

\* 2006年度より新三共胃腸薬類内の集計品目を変更し、過去の実績についても遡って再集計しております。



	備考 (05→06増減)
医療用医薬品売上高 (純売上高)	
循環器関連疾患領域	
オルメテック【高血圧治療剤】	熾烈な競争状況が続く成長市場にあって、優れた降圧効果等を訴求ポイントとしたプロモーション強化により、市場を大きく上回る拡大。
カルブロック【高血圧治療剤】	持続的降圧効果、臓器保護作用等における優位性の訴求が奏効し前同比大幅拡大。
アーチスト【高血圧治療剤】	市場が縮小する中において、慢性心不全に唯一適応のあるβ遮断薬として心臓疾患を中心に処方拡大し、同一薬効内トップシェアを堅持。
メバロチン【高脂血症治療剤】	日本人を対象とした大規模臨床試験MEGA Studyの活用により新規患者の獲得が進んだものの、後発品の処方拡大、競合品の攻勢により減少。
クレメジン【慢性腎不全用剤】	後発品の処方が拡大する中、腎疾患早期患者における有用性の訴求により処方数は拡大したものの、薬価改定の影響を吸収できず減収。
ハンブ【急性心不全剤】	予後改善等における優位性訴求により急性心不全治療における第一選択薬としての高い有用性が浸透。同一薬効内で唯一の伸長。
リパロ【高脂血症治療剤】	競合激化のストロングスタチン市場にあって、ハイリスク患者への有用性を中心にプロモーション展開し、プレゼンス向上。
サンリズム【不整脈治療剤】	薬価改定の影響により微減。心房細動薬物治療における第一選択薬としての処方定着を目指したプロモーション展開により処方数は継続拡大。
ペプリコール【不整脈・狭心症治療剤】	血圧降下剤とのプロダクトミックスによるプロモーション強化の効果が徐々に浸透。
ファスティック【血糖降下剤】	早期糖尿病患者を中心に処方を獲得。小型錠の発売寄与もあり堅調に推移。
感染症/骨・関節/免疫・アレルギー/泌尿器	
クラビット【広範囲経口抗菌剤】	適正使用推進等により市場低迷。完成度の高いキノロン剤として処方数は継続拡大。ポジショニングは磐石なるも薬価改定の影響により減収。
ロキソニン【鎮痛抗炎症解熱剤】	高いブランド力と優れた製品性に加え、06年5月のパップ剤投入も売上拡大に貢献。
モービック【消炎治療剤】	医療制度改革の影響等により市場が低迷する中、効果持続等の製品特性の訴求が奏功し、前年実績を確保するとともにシェアを拡大。
ユリーフ【排尿障害改善剤】	2006年5月発売。確実に自覚症状の改善を期待できる排尿障害改善剤としてプレゼンス確立中。
ジルテック【抗アレルギー剤】	製品コンセプト普及の継続的な取り組みに加え、06年7月の新剤型投入も寄与し処方数は拡大したものの薬価改定の影響もあり減収。
造影剤/癌/消化器	
オムニパーク【造影剤】	包括医療や後発品の処方拡大により減少。ICタグ付シリンジ製剤を始めとした、豊富な規格、用量ラインアップを揃え、処方の維持拡大を推進。
オムニスキャン【MRI用造影剤】	造影剤領域担当MRの増員、新用量、プラスチックシリンジ製剤の追加など諸施策を展開したものの薬価改定の影響もあり微減。
トポテシン注【抗悪性腫瘍剤】	市場の拡大に加え、癌領域専門MRの増員、新規情報生産、エビデンスの徹底活用等により、前同比アップ。
クレスチン【抗悪性腫瘍剤】	免疫療法の処方減に伴い減少。
フェロン【天然型インターフェロンβ製剤】	市場拡大の主因であるリバピリンとの併用療法は未取得であるが、06年4月のC型代償性肝硬変に対する効能追加などにより伸長。

	備考 (05→06増減)
ヘルスケア売上高 (純売上高)	
ルル類	主力「新ルルA錠」の堅調な推移に加え、新製品「ルルアタックIB」の寄与により前同比アップ。
ガスター10	2006年10月に水なしでも服用できる口中溶解タイプの「ガスター10S錠」を発売。
新三共胃腸薬類*	市場が伸び悩む中、高いブランド力による堅調な店頭消化に支えられ前年実績を確保。
バテックス類	愛用者感謝品等のキャンペーン展開を強化したものの、冷感パップ剤市場の低迷に伴い減少。

## 主要輸出製品売上高（建値売上高）

(単位：億円)

	2005年度 実績	2006年度実績					2007年度予想			
		対5月公表	対1月公表	対前同	前同比	上半期	年度	対前同	前同比	
レボフロキサシン【広範囲経口抗菌剤】	295	324	21	-1	29	9.6%	155	310	-14	-4.2%
プラバスタチン【高脂血症治療剤】	645	216	24	12	-429	-66.6%	31	48	-168	-77.9%

## 10.海外の状況

### 米国子会社 - 主要製品売上高（純売上高）

(単位：億円)

	2005年度 実績	2006年度実績					2007年度予想			
		対5月公表	対1月公表	対前同	前同比	上半期	年度	対前同	前同比	
第一三共INC. (DSI)	651	1,304	87	12	653	100.3%	620	1,260	-44	-3.4%
ベニカー / ベニカーHCT 【高血圧治療剤】 (mil USD)	503 (456)	928 (793)	58 (36)	2 (-5)	425 (337)	84.4% 73.9%	440 (381)	870 (759)	-58 (-34)	-6.2% -4.3%
ウェルコール 【高脂血症治療剤】 (mil USD)	148 (134)	232 (198)	25 (18)	3 (0)	84 (64)	56.8% 48.1%	100 (89)	225 (196)	-7 (-2)	-3.1% -1.1%
フロキシシンオティック* 【耳科用抗菌剤】 (mil USD)	62 (54)	82 (71)	4 (4)	4 (4)	- (-)	33.8% 29.7%	55 (48)	90 (78)	8 (7)	9.1% 10.6%
エボザック* 【口腔乾燥症状改善剤】 (mil USD)	24 (21)	29 (25)	2 (2)	2 (2)	- (-)	22.5% 18.7%	15 (13)	32 (28)	3 (3)	8.7% 11.7%
ルイトホ <sup>®</sup> ルト <sup>®</sup> ファーマシューティカルズ Inc. (LPI)	395	610	141	34	215	54.5%	200	400	-210	-34.5%
ヴェノファー 【貧血治療剤】 (mil USD)	226 (205)	377 (322)	105 (86)	30 (23)	151 (117)	66.7% 57.1%	100 (89)	210 (184)	-167 (-138)	-44.3% -42.8%

\* 2006年度より純売上高に変更し、過去の実績についても遡って再集計しております。

ベニカー/ベニカーHCT、ウェルコール、ヴェノファーの2006年度実績は、2006年1月-2007年3月の15ヶ月の実績となっております。  
(2006年1-3月実績)：ベニカー/ベニカーHCT 156億円 (\$135mil)、ウェルコール 39億円 (\$33mil)、ヴェノファー 68億円 (\$59mil)

### 欧州子会社 - 主要製品売上高（純売上高）

(単位：億円)

	2005年度 実績	2006年度実績					2007年度予想			
		対5月公表	対1月公表	対前同	前同比	上半期	年度	対前同	前同比	
第一三共ヨーロッパGmbH (DSE)	439	516	20	-8	78	17.8%	400	690	174	33.6%
オルメテック / オルメテックプラス 【高血圧治療剤】 (mil EURO)	147 (107)	225 (154)	19 (2)	0 (-3)	78 (47)	53.2% 44.1%	205 (147)	370 (265)	145 (111)	64.3% 71.8%
メバロチン 【高脂血症治療剤】 (mil EURO)	55 (40)	60 (41)	8 (1)	2 (-1)	5 (1)	9.1% 2.6%	37 (27)	60 (42)	0 (1)	0.0% 2.9%

オルメテック/オルメテックプラス、メバロチンの2007年度予想は、2007年1月-2008年3月の15ヶ月の予想となっております。  
(2007年1-3月予想)：オルメテック/オルメテックプラス 60億円 (41mil Euro)、メバロチン 15億円 (10mil Euro)

	備考（05→06増減）
レボフロキサシン【広範囲経口抗菌剤】	米国の現地消化は引き続き好調に推移。欧州の現地消化は主要国の薬剤費抑制策の影響によりほぼ横ばい。
プラバスタチン【高脂血症治療剤】	欧州主要国、並びに米国における特許満了により減少。

	備考（05→06増減）
第一三共INC.（DSI）	
ベニカー / ベニカーHCT 【高血圧治療剤】	決算期変更による15ヶ月の実績。市場の拡大に加え、プロモーションの積極展開、製品特性の浸透等により、大幅伸張。
ウェルコール 【高脂血症治療剤】	決算期変更による15ヶ月の実績。統合による営業力強化もあり、継続的な成長トレンドを確保。06年12月に糖尿病の適応追加を申請。
フロキシントティック* 【耳科用抗菌剤】	統合による営業力強化に加え、外耳炎を標的疾患にプロモーション活動を強化し、大幅伸張。
エボザック* 【口腔乾燥症状改善剤】	統合による営業力強化に加え、リウマチ専門医への集中プロモーションが奏功し、大幅伸張。
ルイトルト <sup>®</sup> ファーマシューティカルズ Inc.（LPI）	
ヴェノファー 【貧血治療剤】	決算期変更による15ヶ月の実績。市場の拡大に加え、大手透析チェーンにおけるシェアも好調に推移し、また、後発品の発売もなく大幅伸張。

	備考（05→06増減）
第一三共ヨーロッパGmbH（DSE）	
オルメテック / オルメテックプラス 【高血圧治療剤】	市場が拡大する中、単剤の堅調な推移に加え、各国での配合剤発売も寄与し、大幅伸張。
メバロチン 【高脂血症治療剤】	一部の特許満了国において、BMS社以外の提携先にバルクを供給するなど対策を打ち、横ばい水準を確保。

# 11.連結財務諸表

## 連結貸借対照表<資産の部>

(単位：億円)

	2006.3.31		2007.3.31		増減	増減内容
		構成比 (%)		構成比 (%)		
流動資産	9,585	60.1	10,158	62.1	573	
現金及び預金	2,240		2,326		86	
受取手形及び売掛金	2,402		1,972		-430	----- 子会社の連結除外*による減少 -360億円
有価証券	2,745		3,739		994	----- 手元流動性（現預金＋有価証券＋抵当証券）
抵当証券	165		150		-15	合計 6,215億円（対06年末 +1,065億円）
たな卸資産	1,217		1,078		-139	【内容】当期利益+785億円、子会社売却+910億円、配当金支払-400億円等
繰延税金資産	409		634		225	
その他	413		268		-145	----- 未収還付法人税の減少等
貸倒引当金	-6		-7		-1	
固定資産	6,376	39.9	6,210	37.9	-166	
有形固定資産	2,897	18.1	2,489	15.2	-408	----- 子会社の連結除外*による減少 -358億円
建物及び構築物	1,640		1,425		-215	
機械装置及び運搬具	479		400		-79	
土地	489		380		-109	
建設仮勘定	100		120		20	
その他	189		163		-26	
無形固定資産	362	2.3	602	3.7	240	----- ゼファーマ株式取得による増加（10年償却） 欧州子会社DSEにて骨粗鬆症治療剤EVISTAの 販売権を取得
連結調整勘定	98		-		-98	
のれん	-		186		186	
その他	264		416		152	
投資その他の資産	3,118	19.5	3,120	19.0	2	
投資有価証券	2,563		2,622		59	----- 資金運用増
長期貸付金	62		16		-46	----- 従業員貸付金の減少
前払年金費用	173		180		7	
繰延税金資産	74		89		15	
その他	251		216		-35	
貸倒引当金	-5		-4		1	
資産合計	15,961	100.0	16,368	100.0	407	

\* 子会社の連結除外

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。当期においては、連結子会社のうち、和光堂（株）、富士製粉（株）、第一化学薬品（株）、（株）第一ラジオアイソトープ研究所、三共アグロ（株）、目黒化工（株）、三共エール薬品（株）、第一メディカル（株）等が連結除外となりました。

連結貸借対照表<負債の部>

(単位：億円)

	2006.3.31		2007.3.31		増減	増減内容
		構成比 (%)		構成比 (%)		
<b>負債合計</b>	<b>3,470</b>	<b>21.8</b>	<b>3,647</b>	<b>22.3</b>	<b>177</b>	
流動負債	2,368	14.9	2,815	17.2	447	
支払手形及び買掛金	656		564		-92	----- 子会社の連結除外 <sup>1</sup> による減少 <u>-189億円</u>
短期借入金	135		86		-50	
未払金	395		896		501	----- 転籍一時金等の増加
未払法人税等	262		276		14	
繰延税金負債	0		—		—	
返品調整引当金	6		13		7	
売上割戻引当金	22		25		3	
偶発損失引当金	34		35		1	
その他	858		920		62	
固定負債	1,102	6.9	832	5.1	-270	
長期借入金	34		15		-18	
繰延税金負債	239		361		122	----- 退職給付引当金の減少による増加等
退職給付引当金	683		351		-333	----- 早期退職、転籍等による減少
役員退職慰労引当金	31		10		-21	
土壌浄化対策引当金	29		40		11	
その他	85		54		-31	
<b>純資産</b>	<b>12,491</b>	<b>78.2</b>	<b>12,721</b>	<b>77.7</b>	<b>230</b>	
株主資本	11,565	72.5	11,913	72.8	348	
資本金	500		500		—	
資本剰余金	1,799		1,799		0	
利益剰余金	9,365		9,715		350	----- 利益剰余金の増加 <u>+350億円</u>
自己株式	-98		-100		-2	<変動要因> 当期利益+785億円 配当 <u>-400億円</u>
評価・換算差額等	810	5.0	773	4.7	-37	
その他有価証券評価差額金	803		724		-79	
為替換算調整勘定	7		50		43	
少数株主持分	116	0.7	35	0.2	-81	
<b>負債純資産合計</b>	<b>15,961</b>	<b>100.0</b>	<b>16,368</b>	<b>100.0</b>	<b>407</b>	

連結損益計算書

(単位:億円)

	2005年度		2006年度		増減	増減内容
		構成比 (%)		構成比 (%)		
売上高	9,259	100.0	9,295	100.0	36	----- 米国2社 (DSI・LPI) 決算期変更に伴う影響額 <u>+315億円</u> グループ外自立化対象としている事業の縮小 <u>-643億円</u> ゼファーマ新規連結による増加 <u>+225億円</u>
売上原価	2,907	31.4	2,652	28.5	-255	----- 原価率 -2.9P 高原価率である非医薬事業子会社を連結除外した一方、米国2社 (DSI・LPI)の決算期変更もあり、オルメサルタン等の低原価製品比率が向上
売上総利益	6,352	68.6	6,643	71.5	291	
販売費及び一般管理費	4,805	51.9	5,280	56.8	475	----- ベニカーの拡大に伴う利益シェア支出等、DSIの販管費が増加 <u>+209億円</u> ゼファーマ新規連結による増加 <u>+123億円</u>
広告宣伝費及び販売促進費	747		1,007		260	
研究開発費	1,587		1,707		119	----- グローバル開発品目の開発費用ならびに品目パイプライン導入に伴う費用の増加等
営業利益	1,547	16.7	1,363	14.7	-184	
営業外収益	110	1.2	200	2.2	91	
受取利息	33		77		44	----- 米国2社 (DSI・LPI) における運用益増等
受取配当金	20		35		16	
金融派生商品収益	—		26		26	
営業外費用	60	0.7	42	0.5	-17	
経常利益	1,597	17.2	1,521	16.4	-76	
特別利益	69	0.8	735	7.9	666	
固定資産売却益	49		43		-6	
関係会社株式処分益	12		593		582	----- 非医薬品事業のグループ外化に伴う子会社売却益の増加 (譲渡益 和光堂198億円、第一化学177億円、第一ラジオアイソトープ70億円、三共アグロ約55億円、三共ライフテック約58億円)
投資有価証券売却益	6		82		76	
過年度研究開発費精算益	-		16		16	
特別損失	297	3.2	987	10.6	690	
固定資産処分損	56		36		-19	
事業統合関連損失	99		825		726	----- 希望退職制度に伴う割増退職金、および統合に関わるITシステム開発費用等
事業再編関連損失	12		36		24	----- 非医薬品事業のグループ外化に伴う関連費用
偶発損失引当金繰入額	34		2		-32	
税金等調整前当期純利益	1,369	14.8	1,269	13.7	-100	
法人税、住民税及び事業税等	492	5.3	481	5.2	-11	----- 法人税率 35.9%→37.9%
少数株主利益	0	0.0	3	0.0	3	
当期純利益	877	9.5	785	8.5	-91	

\*子会社の連結除外

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。当期においては、連結子会社のうち、和光堂(株)、富士製粉(株)、第一化学薬品(株)、(株)第一ラジオアイソトープ研究所、三共アグロ(株)、目黒化工(株)、三共エール薬品(株)、第一メディカル(株)等が連結除外となりました。


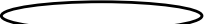
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	2005年度	2006年度	増減	増減内容
税金等調整前当期純利益	1,369	1,269	-100	
減価償却費	411	400	-11	
退職給付引当金の増減額	-33	-285	-252	希望退職による減少
前払年金費用の増減額	-18	-7	11	
関係会社株式処分損益	-8	-581	-573	非医薬品事業グループ外化の増加
売上債権の増減額	117	168	51	
たな卸資産の増減額	83	17	-66	
仕入債務の増減額	-70	33	103	
未払金及び未払費用の増減額	-34	566	599	転籍一時金等の増加
その他	41	105	64	
法人税等の支払額	-530	-620	-90	
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,328</b>	<b>1,064</b>	<b>-263</b>	
短期運用資産の増減額	327	156	-170	
固定資産の取得・売却等	-431	-315	116	
投資有価証券の増減額	-229	-233	-4	
貸付金の増減額	-6	207	213	
少数株主からの子会社株式の取得による支出	-103	-6	97	05年度:第一サントリーファーマの100%子会社化
新規連結子会社の株式取得	-	-272	-272	ゼファーマ株式取得
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	6	910	904	非医薬品事業グループ外化の増加
その他	43	6	-37	
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>-393</b>	<b>453</b>	<b>846</b>	
借入金の増減額	-24	10	34	
自己株式の取得による支出	-166	-2	164	
自己株式の売却による収入	29	0	-29	
配当金の支払額	-173	-400	-227	} 実質1株当たり年間10円増配
株式移転交付金の支払額	-172	-	172	
その他	5	-16	-20	
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>-501</b>	<b>-408</b>	<b>93</b>	
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>38</b>	<b>4</b>	<b>-34</b>	
<b>V 現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>472</b>	<b>1,114</b>	<b>642</b>	
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>3,541</b>	<b>4,010</b>	<b>469</b>	
<b>VII 連結範囲の変更による増減額</b>	<b>-3</b>	<b>9</b>	<b>12</b>	
<b>VIII 現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>4,010</b>	<b>5,132</b>	<b>1,122</b>	

## 12.開発パイプラインの状況

第一三共グループ開発パイプライン (ステージ別)

領域	主な既存品	Phase1	Phase2
循環器	Pravachol/Mevalotin Benicar/Olmetec Welchol  メバロチン パナルジン オルメテック アーテスト サンリズム エースコール ハンブ コバシル リパロ カルプロック	DZ-697b(米/欧/日) (抗血小板剤)  HGF遺伝子プラスミド(米/欧) (虚血性心疾患)	DU-176b(米/欧/日) (経口抗Xa剤)  HGF遺伝子プラスミド(米/欧) (末梢性血管疾患)  SUN 4936h(米/欧) (急性心不全治療剤/導出先探索中)  ☆CS-866RN(日) (慢性糸球体腎炎)  ☆CS-866CMB(日) (オルメサルタンとヒドロクロチアジドの配合剤)  CS-747(日) (抗血小板剤)
糖代謝	ファステック	SUN E7001(日) (II型糖尿病/導出先探索中)  AJD101(米/欧) (インスリンシグナル経路活性化)	  CS-917(米/欧) (糖新生阻害)
感染症	LEVAQUIN/Tavanic FLOXIN Otic BANAN  クラビット カルベニン パナン	DC-159a(米/欧) (ニューキノロン剤)  DX-619(米/欧/日) (ニューキノロン剤)  CS-758(米/欧) (抗真菌)  CS-8958(米/欧) (抗インフルエンザ)  → CS-8958(日) (抗インフルエンザ)	DU-6859a inj(米) (ニューキノロン剤/注射)  CS-023(米/欧) (カルバペネム系抗生物質/ロシュに導出)  CS-023(日) (カルバペネム系抗生物質)  <u>レボフロキサシン注(日)</u> (ニューキノロン剤)
癌	camptoser  トホテン クレチン	CS-7017(米/欧)(PPAR $\gamma$ 作動薬)  CS-1008(米/欧)(抗DR5抗体)  → DE-766(日) (ニモツスマブ/抗EGFR抗体)	
免疫・アレルギー	ジルテック	CS-0777(米/欧) (免疫抑制剤)	CS-712(日) (スギ花粉症)
骨・関節	ロキソニン モービック ミルタックス		CS-706(米/欧) (COX-2阻害剤)  SUN E3001(日) (骨粗鬆症治療剤/導出先探索中)
その他	Venofer Evoxic  オムニパーク クレマジン サンタック オムニスキャン フエロン エボザック ユリーフ	SUN N8075(米/欧) (脳梗塞急性期治療剤)	SUN N4057(米/欧) (脳梗塞急性期治療剤)  CS-088(米/欧/日) (緑内障/参天と共同開発)  SUN11031(日) (神経性食欲不振症)  SUN11031(米/欧) (カヘキシア)  

☆効能追加、剤形追加等

2007年2月の中期経営計画発表以降の主な変更

- 新規追加(アンダーライン) : レボフロキサシン注(日)
- ステージの変更 : CS-011(米/欧)、KMD-3213(中)、CS-8958(日)、DE-766(日)、SUN A0026(北米)
- 開発中止など : CS-023(米/欧)[導出先であるロシュ社の製品ポートフォリオマネジメント上の判断により契約解消]



Phase3	申請/承認
<p>CS-747(米/欧) (抗血小板剤)</p> <p>HGF遺伝子プラスミド(日) (末梢性血管疾患)</p> <p>★CS-8663(欧) (オルメサルタンとアムロジピンの配合剤)</p> <p>★CS-866DM(日) (糖尿病性腎症)</p> <p>★CS-866AZ(日) (オルメサルタンとアゼルニジヒンの配合剤)</p>	<p>★CS-8663(米) (オルメサルタンとアムロジピンの配合剤/申請中)</p>
<p>CS-011(米/欧) (グリタゾン系)</p>	<p>★WeiChol DM(米) (糖尿病/申請中)</p>
<p>SUN A0026(北米) (ペネム系抗生物質/レプリダインに導出)</p> <p>★レボフロキサシン高用量(日) (ニューキノロン剤)</p>	<p>DF-098(日) (Hibワクチン/承認)</p> <p>DU-6859a oral(日) (ニューキノロン剤/経口/申請中)</p>
<p>★CS-600G(日) (ロキソプロフェンゲル製剤)</p>	<p>★LX-P(日) (ロキソプロフェンテープ製剤/ リードケミカルと共同開発)</p>
<p>SUN 0588r(米) (高フェニルアラニン血症/ バイオマリンに導出)</p> <p>SUN Y7017(日) (軽度・中等度および 高度アルツハイマー型認知症)</p> <p>★DL-8234(日) (フェロン効追/C型慢性肝炎/ リパビリン併用療法)</p> <p>KMD-3213(中国) (排尿障害治療剤)</p>	<p>★CS-1401E(日) (麻酔用鎮痛/申請中)</p>

第一三共グループ 開発パイプライン(1)

領域	開発番号	一般名	剤形、経路	適応予定、剤名等	オリジン
循環器	CS-747	プラスグレル	経口剤	急性冠症候群 / 抗血小板剤	第一三共、 宇部興産
	—	HGF遺伝子プラスミド	注射剤	末梢性血管疾患、虚血性心疾患 / HGF遺伝子医薬品、血管新生療法	アンジェスMG (販売提携)
	DU-176b	—	経口剤	心房細動に伴う心原性脳梗塞の予 防、静脈血栓塞栓症の予防・治療 / 経口抗Xa剤	第一三共
	★CS-8663	オルメサルタン メドキシミル、 ベシル酸アムロジピン	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤、 カルシウム拮抗剤	第一三共
	★CS-866DM	オルメサルタン メドキシミル	経口剤	糖尿病性腎症 / アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤	第一三共
	★CS-866RN	オルメサルタン メドキシミル	経口剤	慢性糸球体腎炎 / アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤	第一三共
	★CS-866AZ	オルメサルタン メドキシミル、 アゼルニジピン	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤、 カルシウム拮抗剤	第一三共
	★CS-866CMB	オルメサルタン メドキシミル、 ヒドロクロロチアジド	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤、 利尿剤	第一三共
	SUN 4936h	カルベリチド (遺伝子組換え)	注射剤	急性心不全 / α型ヒト心房性ナトリウム 利尿ペプチド製剤	アスピオファーマ
糖代謝	CS-011	リボグリタゾン	経口剤	糖尿病 / インスリン抵抗性改善剤	第一三共
	CS-917	—	経口剤	糖尿病 / 糖新生阻害剤	第一三共、 メタベイス
	★WeiChol DM	塩酸コレセバラム	経口剤	糖尿病 / 胆汁酸吸着剤	ジェンザイム

★効能追加、剤形追加等

開発地域	開発会社 (自社グループ/ 共同開発)	ステージ (申請年月)	備 考
米欧	共同開発 (イーライリリー)	P-III	・非臨床試験において、他剤より血小板凝集抑制作用が強く、また作用発現が早いことが認められている血小板凝集阻害薬である
日	自社	P-II	・臨床試験において、血小板凝集抑制作用に個人差が少ないことが認められている ・米欧はイーライリリーと共同開発
米欧	アンジェスMG	P-II (末梢)	・肝細胞増殖因子(HGF:Hepatocyte Growth Factor)の遺伝子を筋肉内投与することにより、病巣局所でHGFを産生させ、血管新生を促進する再生医療法である。治療が困難な「末梢性血管疾患(閉塞性動脈硬化症、パージャージャー病)および「虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)」などの新規治療法として期待される ・アンジェスMG社と提携し、日・米・欧における独占的販売権を取得、アンジェスMG社による本剤の開発を支援し、再生医療への国際的貢献を図る
		P-I (心臓)	
日		P-III (末梢)	
米欧	自社	P-II	・抗Xa作用を有し、ヒトにおける高い経口吸収性が確認されている抗凝固剤である ・ヒト経口投与試験において、トロンビン生成が用量相関的に抑制されることが確認されている
日	自社	P-II	
米	自社	申請中 (06.11)	オルメサルタンとCa拮抗剤(アムロジピン)との配合剤
欧	自社	P-III	
日	自社	P-III	・ORIENT試験実施中 ・効能追加
日	自社	P-II	効能追加
日	自社	P-III	オルメサルタンとCa拮抗剤(アゼルニジピン)との配合剤
日	自社	P-II	・発売:米国2003年9月、欧州2005年6月 ・オルメサルタンと利尿剤(ヒドロクロロチアジド)との配合剤
米欧	自社	P-II (導出先探索中)	・α型ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドで、血管拡張作用および利尿作用を併せ持ち、日本においては既に1995年に急性心不全の適応を取得、上市された。以来、着実に成長し、本領域の中心的薬剤となっている
米欧	自社	P-III	・新規グリタゾン系の糖尿病治療薬であり、非臨床試験において他剤より強いPPARγ活性化作用が認められた ・臨床試験において、他剤を上回る用量依存的な糖・脂質代謝改善が確認された
米欧	自社	P-II	肝臓での糖新生をつかさどる酵素であるフルクトース1-6ビスフォスファターゼを阻害する糖尿病薬である
米	自社	申請中 (06.12)	・効能追加 ・通常治療で効果のない2型糖尿病患者に対し、食事療法、運動療法に付加的に用いられることが期待される ・臨床試験において、インスリン併用患者のHbA1cレベルの低下が確認されている

【原則P II以降の課題を掲載】

第一三共グループ 開発パイプライン (2)

領域	開発番号	一般名	剤形、経路	適応予定、剤名等	オリジン
感染症	DF-098	乾燥ヘモフィルスb型 結合体ワクチン	注射剤	インフルエンザ菌b型による 感染症の予防	サノフィアスツール (合併会社と販売 提携)
	DU-6859a	シタフロキサシン水和物	注射剤 経口剤	細菌感染症 / ニューキノロン剤	第一三共
	CS-023	—	注射剤	細菌感染症 / カルバペネム系抗生物質	第一三共
	★レボフロキサシン高用量	レボフロキサシン	経口剤	細菌感染症/ニューキノロン剤	第一三共
	★レボフロキサシン注	レボフロキサシン	注射剤	細菌感染症/ニューキノロン剤	第一三共
	SUN A0026	ファロペネム メドキシミル	経口剤	細菌感染症/ペネム系抗生物質	アスピオファーマ
免疫 アレルギー	CS-712	—	経口剤	スギ花粉症(経口減感作)	第一三共
骨・関節	CS-706	—	経口剤	消炎鎮痛剤	第一三共
	★LX-P	ロキソプロフェン ナトリウム	テープ製剤	消炎鎮痛剤	第一三共
	★CS-600G	ロキソプロフェン ナトリウム	ゲル製剤	消炎鎮痛剤	第一三共
	SUN E3001	(慣用名) ヒト副甲状腺ホルモン	経鼻剤	骨粗鬆症	アスピオファーマ
その他	SUN Y7017	メマンチン塩酸塩	経口剤	アルツハイマー型認知症/ NMDA受容体拮抗剤	メルツ
	SUN N4057	—	注射剤	脳梗塞急性期/ セロトニン1A受容体アゴニスト	アスピオファーマ
	KMD-3213	シロドシン	経口剤	前立腺肥大症に伴う排尿障害改善/ $\alpha$ 1A受容体選択的拮抗剤	キッセイ薬品
	SUN11031	(慣用名) ヒトグレリン	注射剤	カヘキシア 神経性食欲不振症	アスピオファーマ
	CS-088	オルメサルタン	点眼剤	緑内障/アンジオテンシンII受容体拮抗剤	第一三共
	★DL-8234	インターフェロン- $\beta$	注射剤	C型慢性肝炎 (リバビリンとの併用療法)	東レ
	★CS-1401E	クエン酸フェンタニル	注射剤	麻酔用鎮痛剤	ヤンセン
	SUN0588r	塩酸サブプロテリン	経口剤	高フェニルアラニン血症	アスピオファーマ

★効能追加、剤形追加等

開発地域	開発会社 (自社グループ/ 共同開発)	ステージ (申請年月)	備 考
日	サノフィバシール 第一ワクチン	承認 (07.1)	・サノフィバシール社により創製され、当社との合弁会社において開発、承認申請中の日本初の小児用インフルエンザ菌b型(Hib)ワクチンである。Hibが主たる起炎菌である小児細菌性髄膜炎の発生率低下への貢献が期待される ・2007年1月26日承認
米	自社	P-II	・幅広い抗菌スペクトラムと強力な抗菌力を有し、一般感染症のみならず難治性感染症に対する効果が期待できる広範囲のニューキノロン剤である
日	自社	申請済 (06.9)	・日本では、呼吸器感染症および尿路感染症を中心に経口剤で開発中である ・米国では、重症および耐性菌感染症を対象に注射剤で開発中である
米欧日	自社	P-II	・薬剤耐性菌を含む各種病原性細菌に対する幅広い抗菌スペクトラムと強力な活性を有するカルバペネム系の抗生物質である ・他のカルバペネムよりも長い血中半減期を有する
日	自社	P-III	・レボフロキサシンの用法用量変更[1回100mg(重症な場合は200mg)、1日2~3回から、1回500mg、1日1回に]
日	自社	P-II	・レボフロキサシンの注射剤 ・剤形追加
北米	レブリダイン	P-III	・世界初のペネム系経口抗生物質として1997年に日本において発売された一般名「ファロペナムナトリウム」のプロドラッグである。経口投与後に消化管から良好に吸収され、生体内でファロペナムに変換されて各種細菌に対して抗菌作用を発揮する。その抗菌作用は強力かつ殺菌的である ・北米でレブリダインに導出し、2005年12月に米国FDAに4つの適応症について承認申請したが、2006年10月にFDAより非承認の通知 ・2007年2月、販売先としていたフォレストは契約を解除 ・現在、レブリダインは追加臨床試験の実施等についてFDAと協議中
日	自社	P-II	林原生物化学研究所と技術提携
米欧	自社	P-II	・COX-2阻害剤 ・PK/PD試験の結果より、1日1回投与が示唆されている
日	共同開発 (リードケミカル)	申請済 (07.2)	・ロキソプロフェンナトリウム水和物含有経皮吸収型軟膏剤(テープ剤) ・リードケミカル社との共同開発
日	自社	P-III	・ロキソプロフェンナトリウム水和物含有経皮吸収型軟膏剤(ゲル製剤) ・東興薬品工業へ製造委託
日	自社	P-II (導出先探索中)	・ヒト副甲状腺ホルモン[hPTH(1-34)]の経鼻投与製剤。 ・PTHは、カルシウム代謝調節ホルモンの1つであり、既存の骨粗鬆症治療剤が骨吸収を抑制することで作用を発現するのに対し、骨形成を促進する作用を持つ新しいタイプの骨粗鬆症治療剤となることが期待される。他社自己注射剤が米国で承認済み。
日	自社	軽度・中等度 P-III 高度 P-III	・既存のアセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、グルタミン酸受容体の1つであるNMDA受容体への拮抗作用を有するアルツハイマー型認知症治療剤である ・神経細胞保護作用による認知症症状の進行抑制が期待される ・日本において「高度アルツハイマー型認知症」と「軽度・中等度アルツハイマー型認知症」に対するPhase IIIを実施中である
米欧	自社	P-II	神経細胞のセロトニン1A受容体を活性化することにより、脳虚血によって惹起されるグルタミン酸の過剰遊離と神経細胞の興奮(脱分極)を抑制し、虚血による神経細胞死を抑制する。
中国	自社	P-III	・前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤である ・前立腺の $\alpha$ 1A受容体をブロックし尿道の緊張を弛緩させ、尿道抵抗を改善する。既存薬に比べ $\alpha$ 1A受容体に対する選択性が高いため、循環器系への副作用が少なく、また自覚症状の早期改善が期待される
米欧	自社	P-II	現在までに発見されている摂食行動に関係するホルモンの中で、グレリンは唯一の末梢性の内因性摂食亢進因子であり、あわせて強力な成長ホルモン分泌促進作用を有する。国内外で、食欲不振症、種々のカヘキシアに対する治療薬として研究開発を行っている
日	自社	P-II	
米欧	共同開発 (参天製薬)	P-II	参天製薬と共同開発
日	共同開発 (参天製薬)	P-II	
日	共同開発 (東レ)	P-III	・ $\alpha$ 型に比較して抑うつ等の中枢性副作用、脱毛の発現が少ない天然型のインターフェロン- $\beta$ 製剤である ・「C型慢性肝炎(リパビリンとの併用療法)」に関し、効能追加のためのPhase IIIを実施中である
日	—	申請済 (06.9)	・医師主導型治験 ・オピオイド性鎮痛薬クエン酸フェンタニル(フェンタネスト)の小児における用法用量追加
米欧	バイオマリン	P-III	・国内では、BH4欠乏型の異型高フェニルアラニン血症の治療薬として上市されている。 ・最近の研究でフェニルアラニン水酸化酵素変異型の中にBH4反応性の高フェニルアラニン血症の存在が明らかになった ・米国バイオマリンに導出

【原則P II 以降の課題を掲載】



#### 将来の見通しに関して

当社では、東京証券取引所に提出する収益予想に加えて、投資家や証券アナリストの皆様が自ら当社の業績に関する予想を立てられるよう、見通しに関するガイダンスを提供する場合があります。また、ご挨拶、講演、質疑応答、当社の発行する書面、ホームページ記載内容等には現在の計画、見通し、戦略などが含まれる場合があります。何れの場合におきましても、歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいております。従いまして、当社の業績、企業価値等を検討されるに当たりますは、これら見通しのみにも全面的に依拠されることは控えて頂けるようお願い致します。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)急速な技術革新が進む創薬分野において、タイムリーに研究・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

つくっているのは、希望です。



Daiichi-Sankyo

**第一三共株式会社**